

JAEF REPORT

平成28年1月5日

年4回発行(1,4,7,10月)

(公財)日本自動車教育振興財団 活動報告

【目次】

- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| ◆ 新年のご挨拶 | ◆ 26都道府県(57件)の研修会に講師を派遣 |
| ◆ 15府県で教材贈呈式を開催 | ◆ 欧州交通事情調査(イタリア)を実施 |
| ◆ 第100回～第101回JAEF研修会を実施 | |

新年のご挨拶

財団運営

新年おめでとうございます。

旧年中は弊財団に対し格別のご支援・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は、「社会と自動車のより良い関係を形成するため、高等学校における自動車及び交通に関する教育の支援事業を行う」という財団の目的に沿って、自動車教育をさらに前進させることができました。これらは、皆様のご支援・ご指導の賜物でございます。

ここに、昨年の主な事業展開について簡単に紹介させていただきます。1つ目の技術教育支援事業では、27年度公募対象校(青森県をはじめとする15府県307校の工業高校など)へ、実習用エンジンなど29種類の提供教材を公募案内したところ、同対象地域の前回応募実績(平成24年度:93校)を大きく上回る101校からの応募がございました。これは、自動車技術教育に対する支援要望が、高校の教育現場にはまだまだ沢山あることの証左ではないかと思われま

す。2つ目の研修事業では、交通・環境・交通安全・自動車技術をテーマとして、先生方を対象としたJAEF研修会(財団主催の研修会)を東京、静岡、兵庫の3地域で4回開催し、約200名の先生方にご参加いただきました。研修内容についても参加された先生方から高い評価をいただくことができました。また研修会への講師派遣については、関係諸団体のご協力により、派遣件数・受講人員は過去最多となる見通しとなりました。平成27年度合計では、前年度を上回る約250件の研修会への講師派遣により、先生と生徒を合わせた受講者は約9万5千名となる見込みです。

3つ目の調査研究事業では、国内外の交通調査を広く実施し調査内容をまとめると共に、それを基にした広報誌向けの特集記事の作成・掲載や関係者への調査報告を行いました。また、自動車に関する教育を広く高校生全体に普及させるべく、自動車・交通・環境・交通安全に関する副教材シリーズの提供に取り組みました。特に、昨年刊行した新副教材『クルマを通じて社会を考える』は全国の高校の先生方から大変高い評価を頂戴しました。

そして最後に普及啓発事業では、全国約5,900校の高等学校に広報誌の提供を重ねると共に、ホームページやニュースリリースなどにより、高校やマスコミへのタイムリーな情報発信を行い、自動車教育の輪をさらに広げることができました。

そんな中、自動車業界を取り巻いた環境を振り返りますと、円安・株高傾向が続き総じて堅調さが感じられた1年ではなかったでしょうか。勿論、国内では消費税率アップによる消費の停滞や不透明な今後のTPP交渉の行方など、日本経済の不安材料は多々ございましたし、現在も継続しております。しかし、そのような不透明で難しい環境下であったにもかかわらず、財団が粛々と事業を展開できましたのも、関係諸団体・企業の皆様の継続的なご支援・ご協力の賜物に他なりません。

財団は、今年も自動車教育を通して次世代を担う高校生の育成に取り組む所存でございますので、諸環境厳しき折ではございますが、引き続き皆様のご指導・ご鞭撻を何卒宜しくお願い申し上げます。

【財団事業展開状況】

事業	主な取り組み	平成26年度実績	平成27年度見込み
技術教育支援	エンジンなどの各種教材提供	14都道府県 87校	15府県 101校
	贈呈式・教育懇談会の開催	14都道府県 約280名	15府県 270名
研修	JAEF研修会の開催	5回 160名	4回 約200名
	講師派遣の実施	243校 約93,000名	約250校 約95,000名
調査研究	国内外交通調査に基づく副教材作成・提供	約1,100名・校	900名・校
普及啓発	広報誌の作成・提供	5,900校	5,900校

INFORMATION

1~3月予定

- 各部会、委員会を開催 2月
- 第11回理事会を開催 3月14日
- 9府県(15件)の研修会に講師を派遣 1月~3月

15府県で教材贈呈式を開催

…10月29日～12月14日

技術教育

財団は、平成27年度の技術教育支援事業の一環として、自動車技術教育用教材を15府県101校に提供することとなった。教材提供に際して、10月に1県、11月に11府県、12月に3県の計15府県において各都道府県自動車教育推進協議会*1（以下、推進協議会）と共催で「自動車技術教育用教材贈呈式」（以下、贈呈式）を開催した。

これら15府県で行われた贈呈式には、関係者が合計で271名（学校関係者175名、および推進協議会関係者96名）出席し、大変盛り上がりのあるものとなった。加えて、これらの贈呈式は多くの地域で地元TV局や新聞社などのマスコミ取材を受け、その報道により、各地域における推進協議会活動の理解促進が図られた。

本年は、提供校数が同地域の前回（平成24年度）より9校増えたが、第一希望の教材提供校は101校中93校、第二希望の教材提供校は8校と応募した全高等学校からの希望に応えることが出来た。

贈呈式は、13提供府県において合同開催方式*2で、2県は学校訪問方式で開催した。また全ての開催府県において、贈呈式に参加いただいた学校関係者と、財団および推進協議会のメンバーによる、地域に密着した自動車教育を推進していくための情報交換の場として教育懇談会（意見交換会）を行った。

学校関係者からは、予算が厳しい折、財団の教材提供に感謝の言葉が多くあり、今後とも支援の継続の要請があった。

教材に対する意見に関しては、模型教材や主要部品の使ったカットモデルがあればなど、視聴覚教材の充実への要望は一部出されたが、ほとんどの学校からは現メニューに対し、満足との評価をいただいた。

また、生徒の「クルマへの関心」についての意見では、趣味の多様化によりクルマへの関心が低下しているとの意見が多く寄せられた。

自動車業界の課題である整備士人材確保については、学校から、「業界団体として、整備士のイメージアップに取り組んでほしい」「親に対する旧態依然とした仕事イメージの払拭を図っていただきたい」「処遇・待遇につき、他業種と比較し、見劣りしないようにお願いしたい」「高校を出てすぐに就職する生徒も多く、経済的理由で整備士を目指すことをあきらめるケースもあり、昔のように、採用後のその会社での育成を期待する」との意見・要望も多数あった。このように教育現場の生の意見を聞いたことは、財団及び推進協議会にとっても、今後の支援方法や整備士人材確保についての参考となった。

- *1：各都道府県の自動車販売店協会、自動車整備振興会、軽自動車協会、日本自動車連盟支部、日本損害保険協会支部の5団体（一部の県では中古車販売店協会が参加）を中心に構成。
- *2：教育委員会、代表校長、提供校長、担当教諭などの当該県の学校関係者と、推進協議会メンバーがホテルなどで一堂に会して目録贈呈が行われる方式



▲青森県贈呈式（10/29）



▲岐阜県贈呈式（11/6）



▲福島県贈呈式（11/9）



▲静岡県贈呈式（11/10）



▲岩手県贈呈式（11/12）



▲宮城県贈呈式（11/13）



▲大阪府贈呈式（11/18）



▲京都府贈呈式（11/20）



▲滋賀県贈呈式（11/25）



▲奈良県贈呈式（11/27）



▲三重県贈呈式（12/2）



▲愛知県贈呈式（12/3）



▲茨城県贈呈式（12/8）



▲和歌山県贈呈式（12/8）



▲兵庫県贈呈式（12/14）

【開催実績表】

	県名	提供校数	参加人数	開催日	開催場所
1	青森県	11	26	10/29	青森県自動車会議所
2	岐阜県	4	16	11/6	ホテルリソル岐阜
3	福島県	9	24	11/9	福自販会館
4	静岡県	6	21	11/10	ホテルセンチュリー静岡
5	岩手県	2	5	11/12	ホテルメトロポリタン盛岡
6	宮城県	13	29	11/13	ホテルメトロポリタン仙台
7	大阪府	12	29	11/18	リーガロイヤル大阪
8	京都府	2	7	11/20	京都東急ホテル
9	滋賀県	3	13	11/25	琵琶湖ホテル
10	奈良県	3	10	11/27	奈良県立奈良朱雀高等学校
11	三重県	7	17	12/2	ホテルグリーンパーク津
12	愛知県	10	26	12/3	キャッスルプラザ
13	茨城県	7	19	12/8	茨自販福祉センター
14	和歌山県	2	6	12/8	和歌山県立和歌山工業高等学校
15	兵庫県	10	23	12/14	ANAクラウンプラザホテル神戸
合計		101	271		

第100回～第101回JAEF研修会を開催

・・・11月2日、20日

研修

財団は、全国の高等学校の先生方を対象としたJAEF研修会を本年度4回計画し、そのうち2回を11月2日（第100回）と20日（第101回）に実施し、合わせて117名の先生方に参加いただいた。

第100回研修会では、「自動運転車・開発の現状と将来展望」と題し本田技術研究所 四輪R&Dセンター 上席研究員 杉本洋一氏が、「自動運転への期待」や「開発の歴史と現状」等について動画を交えながら分かりやすく解説した。参加した94名の先生方からは「丁寧な説明で、自動運転に関する最先端の技術が分かり大変参考になった」等の感想があった。なお、参加者は講演会の終了後、第44回東京モーターショーを熱心に見学した。

また第101回JAEF研修会は、日野自動車羽村工場で開催し、「大型自動車の安全運転技術」の講演と大型バスでのPCS（衝突被害軽減ブレーキ）体験、羽村工場見学を行った。講演は、同社お客様センター室 鈴木仁氏が、バックアイカメラ、巻き込み事故防止技術等について、実際のトラックを利用したリアルな説明を行った。その後参加者は、大型バスに乗車して衝突被害軽減ブレーキ性能を体験し、また組立ラインの見学を行った。同研修会も参加した23名の先生方から大変高い評価をいただいた。

なお、今年度4回のJAEF研修会参加者は198名、平成5年以来、延べ参加人数は3,821名となった。



▲第100回JAEF研修会（講演）の様子



▲第101回JAEF研修会の様子

26都道府県(57件)の研修会に講師を派遣

・・・10月～12月

研修

財団は、各高等学校からの要請を受け、26都道府県(57件)の研修会に關係団体・企業から専門の講師を派遣した。受講者は先生・生徒合計で20,962名に上った。

内訳は、一般研修会の「交通安全」に関する講師派遣が51件(「危険予知による交通安全」19件、「自転車や歩行者等を中心とする夜間の交通安全対策」13件、「交通事故とその責任」10件、「自転車と交通安全について」6件、「クルマ・自転車・人がつくる道路交通と安全」3件)で、受講者は20,756名であった。

また、技術研修会の「自動車の整備技術」に関する講師派遣が1件(「ガソリンエンジンの分解・組立」)、「自動車の最新技術」に関する講師派遣が5件(「日産・電気自動車」2件、「トヨタ・ハイブリッド車」1件、「ホ

ンダ・ハイブリッド車リッド車」1件、「マツダ・SKYACTIV」1件)で、これらの研修会受講者は206名であった。

「交通安全」に関する講師は、(一社)日本自動車連盟支部および(一社)日本損害保険協会支部にご協力いただいた。また、「技術研修会」の講師は、愛知県自動車整備振興会、島根トヨタ、近畿日産自動車、日産サテオ宮城、ホンダカーズ広島、マツダにご協力いただいた。そして、いずれの研修会の参加者からも大変高い評価をいただくことができた。

ご協力をいただいた関係団体・企業ならびに各県の推進協議会の皆様には、紙面をお借りして改めて厚く御礼申し上げます。



▲交通安全に関する講師派遣の様子
(宮城県松山高等学校)



▲最新技術に関する講師派遣の様子
(奈良県立奈良朱雀高等学校)

欧州交通事情調査(イタリア)を実施

・・・11月23日～12月6日

調査研究

財団では、11月下旬から12月上旬にかけて、本年度2回目の海外調査としてイタリアの交通事情を調査した。イタリアは歴史ある都市が多く史跡が残るため、日本と同様に市街地は狭い通りが多い。その状況下で交通需要マネジメントを行い市街地の自動車交通の整序化を図る一方、LRT(次世代型路面電車)を建設するなどの取り組みを行っている。こうしたクルマ交通の規制を行いつつも自動車大国(人口当たり自動車保有台数は欧州一)としての位置づけを保っているイタリアでの交通実情を調査し、我が国の交通施策を考える上での知見を得るのが目的である。

今回訪問した都市(ローマ、フィレンツェ、ミラノ、パドバ、フェッラーラ)をはじめ、イタリアの多くの都市ではZTL(Zona a Traffico Limitato)という中心市街地への交通規制を設定している。都市により規制内容には差があるが、概ね、平日の日中は公共交通機関、タクシー、居住者の車両以外のZTL区域内への車両乗り入れを禁止、または有料化(エリアプライシングの考え方)するというものである。

特徴的なのは、単にクルマを規制するだけではなく、ZTL周辺部での駐車場整備、LRTの敷設、LRT郊外駅

でのP&R駐車場整備などクルマユーザーの利便性をなるべく損なわないような施策とセットで実施していることである。

また、ポンペイなど古代ローマ時代の遺構では2千年も前から段差のある歩道が設けられ、中世の建物ではポルティコという歩行者用の天蓋付き歩道が設けられるなど、歩行者と馬車交通を分離する考え方、歩車双方の利便性を考慮した交通の考え方が古くから根付いていることがわかる。このような概念を基本に据えた都市計画づくりを行ってきた長い歴史が今日のイタリアの都市の交通計画に活かされていると思われる。



▲ZTLの標識
(ミラノ)



▲ZTL入り口付近の駐車場
(ミラノ)



▲旧市街地を走るLRT
(パドバ)



▲LRT駅のP&R
(パドバ)



▲ポンペイ遺跡の歩道
(ポンペイ)



▲ポルティコ
(パドバ)